

平成12年度 技術研究所の事業概要

平成12年度に自振協・技術研究所が実施する事業の概要をご紹介します。

まず、業界への支援事業として、ISO等各種規格制定に参画し、国際統合の推進に取り組みます。また実用化研究として車いすの改良普及を図り、市販化をめざします。これらの事業は、業界を側面から強力に支えるとともに、ユーザーに対しては安心して使用できる自転車や車いすの提供に必ずや役立つものと思われま

す。次に、競技用自転車に係る技術的な課題への対応や日本競輪学校への技術支援など、競輪支援事業も引き続き実施いたします。

さらに広報事業として、研究発表講演会や技術研修会を開催し、成果の普及を図るとともに、インターネットの活用による情報の発信も行います。もちろん、研究所では事業の遂行につきましては、業界・関連団体と綿密な連携を取りながら進めてまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、以下の事業は日本自転車振興会より競輪収益による補助金の交付を受けて自転車等機械工業振興事業として実施するものです。

1. 自転車等安全性の向上

1) 自転車国際統合化推進

ISO / TC 149 委員会から提案される自転車の規格について、強度試験を行い規格の妥当性を検証し日本製品の強度水準に関する資料を提供するとともに、規格制定に参画します。

2) 車いす国際統合化推進

ISO / TC 173 / SC 1 委員会より提案される車いす規格等の妥当性について、ISO 国内対策委員会を開催の上、検討を加え、日本案を提言し、国際規格作成に参画します。

2. 自転車競技用訓練機器等の開発

1) 自転車競技者訓練用機器開発

日本競輪学校設置の指導訓練用機器（台上走行試験装置）のコンピュータシステム開発及び指導訓練用機器の保守等の技術支援を行います。

2) 自転車競技用機材等開発

自転車競技における円滑な競技遂行のため、検車機器工具等の実態調査およびその改良、開発普及を図ります。

3) 競技用自転車部品調査

競技用部品の強度試験等を実施し、部品の安全確保のための資料を収集するとともに、競輪場内外における競技用自転車のトラブル原因の解明と対策の提案を行います。また、安全基準および認定基準の確認試験を実施し、改正提案を行います。

4) 競輪自転車部品製造支援調査

競輪部品の供給体制を補完すべく技術調査を行い、新規部品の可能性等各種資料を収集します。

3. 車いす等製品評価・技術開発

1) 新型車いす実用化普及促進

研究所開発の車いすをメーカーと連携し、強度評価試験、モニター調査等を行い、実用化のための改良を加え市販化を図ります。

2) 車いす等評価機能の推進

車いすを中心に福祉機器の品質性能安全性に関する評価技術の研究推進と評価のための試験研究設備を整備し、製品の性能向上に寄与します。

4. 自転車情報広報

自転車関連情報整備提供

協会本部と連携し、技術研究所が収集する自転車関連資料を整備し、情報加工・データベース化を行い、インターネット上での情報提供を図ります。